

技術教育出版社 20 周年記念セミナー

メイクアップ化粧品技術・研究開発のトレンドとこれからの展開

2019年3月11日（月） 13時～17時（受付12時40分）

◆会場：アルカディア市ヶ谷・私学会館（JR、東京メトロ・有楽町線・南北線、都営新宿線、市ヶ谷駅から徒歩2分）

東京都千代田区九段北4-2-25 TEL03-3261-9921

◆参加費：18,000円（税込）

◆予稿集：受付にて配布いたします。

◆申込先：技術教育出版社：〒166-0015 東京都杉並区成田東3-3-14 ニックハイムビル106

Tel/03(5913)8548 : Fax/03(5913)8549

◆開催のねらい：

メイクアップ化粧品の研究開発の流れを概観し、粉体技術、ファンデーションの研究開発、コンピュータグラフィックス技術の応用、さらには機能性と自然派指向に着目したポイントメイクについて第一線でご活躍の講師の方にご講演いただきます。

◆プログラム（講演概要）

1, 13時～13時45分「メイクアップ化粧品技術・研究開発のトレンドと粉体技術」

福井技術士事務所 福井寛氏

メイクアップ化粧品に求められる機能として、①美的役割、②防御的役割、③心理的役割などを述べる。また、化粧品に用いられる3つの性質（バルク、粒子、表面）や分散の基礎および表面処理などについて解説する。

2, 13時50分～14時35分「顔の“動き”に着目した高持続性ベースメイクアップ化粧料の研究開発」

花王(株) 度会悦子氏

メイクアップ化粧料が担う重要な機能の1つである化粧持続性について話す。中でも、顔の“動き”により、ほうれい線などのシワにファンデーションが溜まる化粧崩れ現象である“化粧よれ”の抑制技術について、ベースメイクアップ化粧料への応用も踏まえて解説する。

3, 14時40分～15時10分「素肌感と隠蔽力を両立した多色ファンデーションの開発」

ポーラ化成工業(株) 宗吉裕樹氏

ベースメイクに対する嗜好は時代の変遷とともに変化し、現在は素肌感演出力と隠蔽力の相反する機能が求められている。本講演では、「きれいに見える素肌が持つ適度な肌色のばらつき」に着目し開発した多色ファンデーションによるアプローチ法について解説する。

4, 15時10分～15時55分「コンピュータグラフィックス技術のメイクアップ化粧品開発への応用」

関西学院大学 飛谷謙介氏

これまでに我々は感性と物性との関係性を定式化することで、所望の感性的な価値を効率的に高める製品開発の枠組みを提案してきた。本講演では、上記枠組みにおいてCG技術を適用した、人の肌やベースメイク料開発に関する2つの研究事例について紹介する

5, 16時～16時45分「口紅スティックの物性制御技術～植物由来原料への置き換えを目指して～」

東京工科大学 柴田雅史氏

口唇化粧品の基剤である油性ゲルの代表的な役割は、唇を乾燥から防ぎ、つやを付与し、滑らかに塗布できることである。本講演では、ワックス、オイル、ペーストなどの原料が上記の性能に影響を与える機構と、さらに自然派指向の強い昨今に望まれる、植物由来原料への置き換え技術について解説をおこなう。

申込書	メイクアップ化粧品処方技術・研究開発のトレンドとこれからの展開
社名	
所属	
氏名(ふりがな)	
住所	〒
FAX	「TEL」
e-mail	

お申し込み：FAX：03-5913-8549

「お支払予定日」 月 日

「申し込み締切日：3月6日（水）ただし定員になり次第締め切り」<http://www.kbsweb.org/Gijyutukyoku/>

「お振込みは、当社より、請求書、聴講券、地図が届いた後にお手続きをお願いいたします。振込み手数料はご負担下さい。」